

2019年11月17日(日) 一矢吹西沼一

今回は、いわきへら研の最終戦。会場は矢吹西沼です。集合場所の好間工業団地を5時に出発。西沼には6時半前に到着する。今回の参加者は、最近の例会では多い11名の参加となりました。

7時の試合開始に合わせ入釣。前回の筑波湖例会で成績が悪かった私は2番目の入釣である。中央棧橋の事務所よりの角に入ろうと思って荷物を置くと、皆さんから、「ここは去年釣れなかったのに・・・」と言われる。昨年参加したことを全く忘れていたが、どうも釣れなかったらしい・・・皆さんのご厚意を信じ、中央よりに移動することにした。左の席を4つ程空けて、最悪の?会長の隣である。

私は、季節的に9尺のチョウチンと決めていたのだが、会長はいきなりの浅ダナである。いやな予感がしたのだが、直ぐに結果に表れる。会長は数投で釣れだし、あっという間に4、5枚。対してこちらは1枚拾うも後が続かない。何時もの展開だ。

さて、私の今回までの年間成績は6位。団体トーナメントの選手となる5位までは約200点差。5位の平子君の動向が気になるころだ。時間の経過とともに、当たりが出始め、さらに、落ち葉が水面を覆ってしまったので、浅ダナはかなり釣りにくい状態になった。これで、浅だなとペースは同じ感じに。ここで、何時ものように平子君がお散歩にやってくる。釣果を聞くと同じ13枚程度とのこと。これで年間成績の逆転は難しい状況。そして、想定外の出来事、山側棧橋に一人入った真ちゃんが、フラシ2つとのこと。秋の珍事?恋のお熱が釣りに影響したのか鼻息荒く、入れパクとのこと。いわきへら研の月例会の点数は、1位の釣果を基準に各選手の占有率でポイントが決まるルール。つまり、優勝がブッチギリだと、その他の点数は差が無くなってしまふのだ。その状況で平子君と同数では話にならない。まあ、最後の例会くらいは上位に入れればという感じでモチベーションを保ち釣りに集中する。釣れてくる感じとしては、早い当たりだけで、誘いを長くしてもカラツンになってしまう。そこで、誘いは3回と決めて、特に3回目の当たりに集中すると、何とかペースアップ。14時には30枚近くまで伸ばすことができた。ここで平子君が早上がりとのことでやってくる。聞くと16枚で5kgくらいとのこと。午前中から数が伸びていないようだ。本人はトーナメント選手を意識し、私の釣果を気にしている様子。ここでほぼダブルスコアなので、あとは真ちゃん次第だ。残り1時間。気合を入れたものの、当たりは単発、結局、計33枚9.5kgで終わった。隣の会長は枚数を間違えたのか?ほぼ同数のはずなのに私よりも1kg多くご機嫌である。優勝は、重篤の恋の病に陥っている真ちゃん!何と15.1kg。新ベラが寄っていたらしく、一フラシ20枚を入れて正味7kg位。恐れいりました。2位には棧橋中央奥で浅棚の永山さん、3位は会長、そして私は4位で終了。気になる平子君の釣果は、本人が言う通り5.1kg。計算の結果、辛くも100点差で逆転となった。トーナメント選手を気にしていた平子君には申し訳ないけど、今年の決勝戦のリベンジを果たしたいと思います。

[いわきへら研のサイトへ](#)



朝から浅ダナで快調に絞る会長



落ち葉でエサを打つ場所もない



鼻息荒く優勝した真ちゃん

<私のタックル>

竿 : 9尺
 タナ : チョウチン
 ハリス : 8cm×45cm
 バラケ : マツハ2、セット専用1、
 凄駄1、新B1、
 トロスイミー0.5、粒戦
 0.5、水1.7
 食わせ : 力玉